

TAMRON®

産業の眼を創造貢献するタムロン



第63期 報告書

2009年1月1日～2009年12月31日

株主の皆様へ | TO OUR SHAREHOLDERS



代表取締役社長 小野 守男

株主の皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。当社第63期(2009年1月1日～2009年12月31日)の営業概況についてご報告申し上げます。

当期における世界経済は、金融経済危機に端を発した急激な景気悪化から緩やかに持ち直してきたものの、先進国各国でマイナス成長となる等、持続力に不透明感の残る状況となりました。

国内経済は、企業の生産活動を中心に一部では回復傾向にありますが、依然として設備投資や雇用情勢は低水準で推移し、消費マインドも横ばいで推移したほか、為替についても米ドル・ユーロともに前年比円高で推移するなど厳しい状況で推移いたしました。

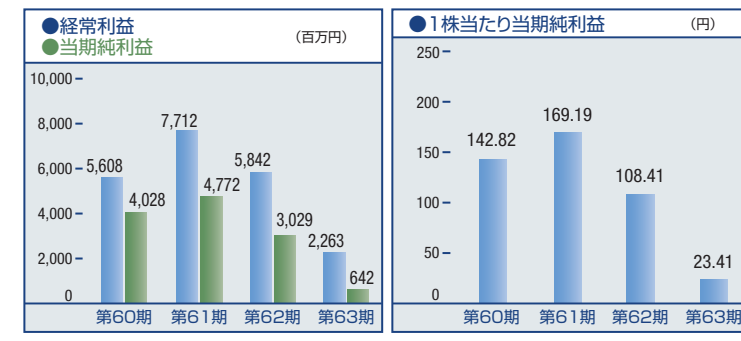
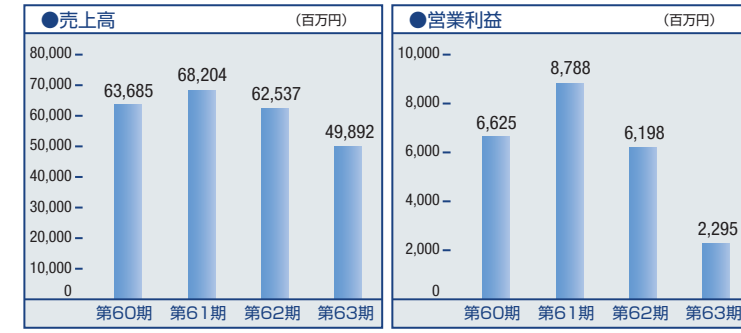
このような状況の下、当期における経営成績は、第1四半期を底として着実に回復し、第4四半期には写真関連事業を中心に大幅な改善が見られましたが、中高級機種種のコンパクトデジタルカメラ市場低迷の影響や前年に比べ為替レートが円高で推移したこと等により、売上高は498億92百万円(前期比20.2%減)となりました。利益面につきましては、原価の低減や販管費の抑制を図ってまいりましたが、売上高の減少による売上総利益の減少を補いきれず、営業利益は22億95百万円(前期比63.0%減)となり、経常利益は22億63百万円(前期比61.3%減)となりました。なお、第2四半期に厚生年金基金脱退に伴う追加損失11億30百万円を計上したこと等により、当期純利益は6億42百万円(前期比78.8%減)となりました。

期末配当金につきましては、業績が減収減益となりましたが、前年と同額の1株当たり25円といたしました。年間配当金は40円(中間配当金15円)となり、配当性向(連結)は170.9%となりました。

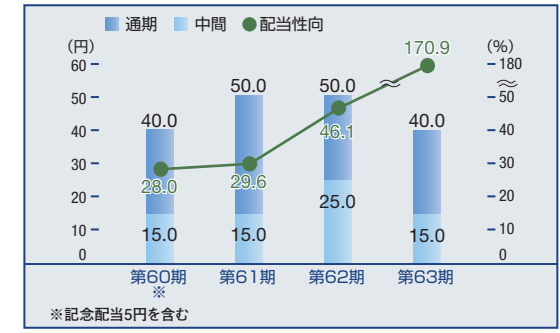
株主の皆様におかれましては、これからも引き続きご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

2010年3月

業績の推移



配当金について



次期の見通しについて

	上期	下期	通期
売上高	239億円	291億円	530億円
営業利益	13億円	33億円	46億円
経常利益	12億円	31億円	43億円
当期純利益	8億円	18億円	26億円

※本見通しは、為替レート1米ドル=90円、1ユーロ=125円を前提としております。

中期の見通しについて

2012年 中期経営計画 売上高

年	2009年	2010年	2012年
実績/目標	498億円	530億円	683億円

セグメント別中期計画

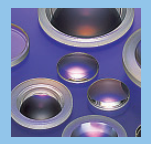
- 写真関連事業 **416億円**
- レンズ関連事業 **120億円**
- 特機その他事業 **147億円**

[中長期的な会社の経営戦略および対処すべき課題]

- ① CSR経営を強化するとともに、内部統制およびリスクマネジメントの推進
- ② 全社プロセス改革によるスピード経営の実現
- ③ 写真関連事業における自社ブランド製品の拡販体制の強化
- ④ 製品実現プロセス改革により品質と信頼性の向上推進
- ⑤ 主要部品の内製化推進およびロジスティクス戦略強化による更なる原価低減
- ⑥ 携帯関連、車載関連、遠赤外線関連および新事業の推進
- ⑦ 光学技術を中心とした要素技術開発と知的財産戦略の強化推進

CONTENTS

- 株主の皆様へ 1・2
- セグメント別事業の概況 3・4
- 下半期トピックス一覧 5・6
- フォーカス! 最新情報 7・8
- 連結財務諸表 9・10
- 個別財務諸表 11
- CSR活動報告 12
- 会社概要 13・14
- マクロレンズ フォトコンテスト 裏表紙



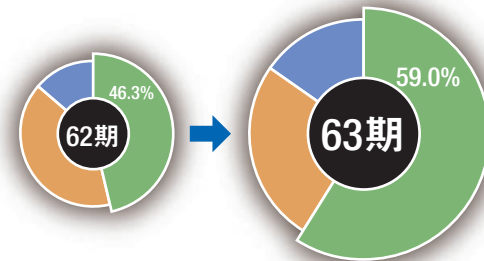
セグメント別事業の概況 | BUSINESS SEGMENT

写真関連事業

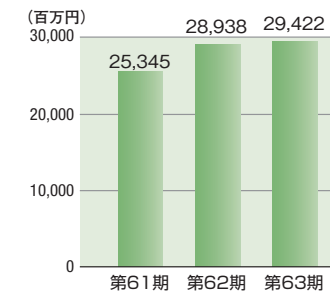


デジタル一眼レフカメラ用交換レンズ

連結売上高構成比較



写真関連事業売上高

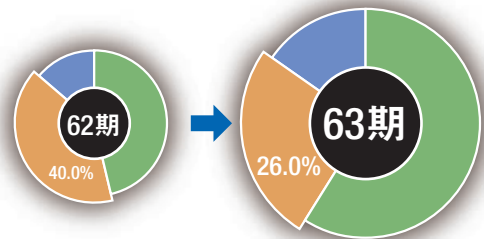


写真関連事業では、自社ブランド製品は昨年EISAアワードなど数々の賞を受賞し主力商品となった世界最高の15倍を誇る超高倍率ズーム18-270mm F/3.5-6.3 VC (Model B003)が好調に推移いたしました。また、昨年6月発売の開放F値2.0を実現したマクロレンズ60mm F/2 (Model G005)や9月発売の大口径標準ズームレンズ17-50mm F/2.8 VC (Model B005)の新製品も貢献し、自社ブランド製品は欧州や中国を中心に売上を伸ばしました。一方OEM関連は徐々に回復はいたしました。このような結果、写真関連事業の売上高は294億22百万円(前期比1.7%増)、営業利益は34億28百万円(前期比2.1%減)となりました。

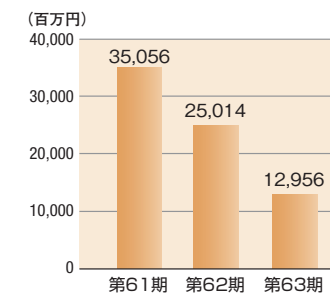
レンズ関連事業



デジタルカメラ用レンズ・ビデオカメラ用レンズ



レンズ関連事業売上高

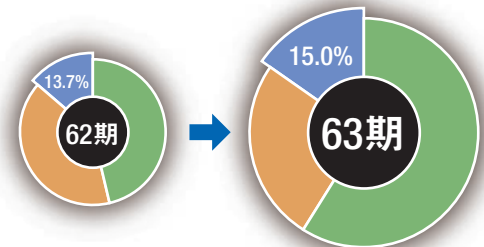


レンズ関連事業では、コンパクトデジタルカメラ用レンズユニットが中高級機種を中心として急激に市場が悪化したことや価格競争の激化による販売価格の下落等の影響により、大幅な減収となりました。利益面では、売上高が大幅減収となりましたが、黒字を確保いたしました。このような結果、レンズ関連事業の売上高は129億56百万円(前期比48.2%減)、営業利益は37百万円(前期比98.9%減)となりました。

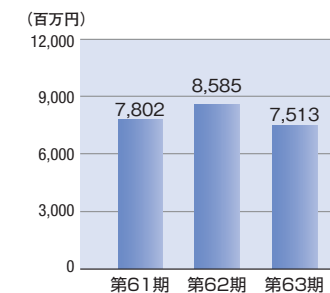
特機その他事業



監視カメラ用レンズ



特機その他事業売上高



特機その他事業は、CCTVカメラ用レンズユニットにおいて“画面全域でメガピクセルの性能を実現”する監視カメラ用レンズ製品群「Flat Field Mega Pixel Lens (フラットフィールドメガピクセルレンズ)」シリーズの展開や高画質バリオフォーカルレンズ搭載の屋内用ミニドームカメラを発売いたしました。このような結果、特機その他事業の売上高は75億13百万円(前期比12.5%減)、営業利益は7億26百万円(前期比46.0%減)となりました。

下半期トピックス一覧 | TOPICS

PRODUCTS
交換レンズ

●18-270mm F/3.5-6.3 VC(Model B003)が、欧州のEISAアワードに加え、米国でも受賞 日米欧で高い評価を獲得 当社レンズの4年連続受賞となったEISAアワード受賞に加え、米国の有力な写真専門誌「AMERICAN PHOTO」が主催する、「AMERICAN PHOTO/EDITOR'S CHOICE 2009 LENS OF THE YEAR」を受賞。
日本では既に映像およびサウンドを中心としたホームエンターテインメント業界発展のために創設された「ビジュアルグランプリ2009 デジタルカメラグランプリ 交換レンズ部門 金賞」や、サイトユーザーの声をもとにした「価格.comプロダクトアワード2008 レンズ部門 金賞」を受賞しており、主要市場である日米欧で高い評価を獲得しました。



OTHERS

●インド駐在員事務所を開設

2009年
7 July

PRODUCTS
監視カメラ

●高画質パリアフォーカルレンズ搭載 屋内用ミニドームカメラ 2.8-10.5mm F/1.2 NTSC DC12V (Model DC28105N-12)発売



PRODUCTS
交換レンズ

●17-50mm F/2.8 VC (Model B005)発売



2009年
8 August

OTHERS

●自動車産業用品質マネジメントシステム ISO/TS16949認証取得 今後の需要拡大が見込まれる 車載レンズ事業が順調に進捗



PRODUCTS
交換レンズ

●17-50mm F/2.8 VC (Model B005)、60mm F/2 (Model G005)が、「デジタルカメラグランプリ2010 レンズ部門」において、それぞれ金賞、銀賞を受賞



2009年
9 September

PRODUCTS
監視カメラ

●高画質パリアフォーカルレンズ搭載 屋内用ミニドームカメラ (PALモデル/DC28105P-12)開発発表

OTHERS

●第2回タムロン鉄道風景コンテスト 「私の好きな鉄道風景ベストショット」入賞作品写真展開催 (10/14~10/27)

2009年
10 October

OTHERS

●「さいたま市テクニカルブランド企業」に認定
●ISO9001・ISO14001規格を国内全拠点 統合で認証取得
●モスクワ駐在員事務所を開設

2009年
11 November

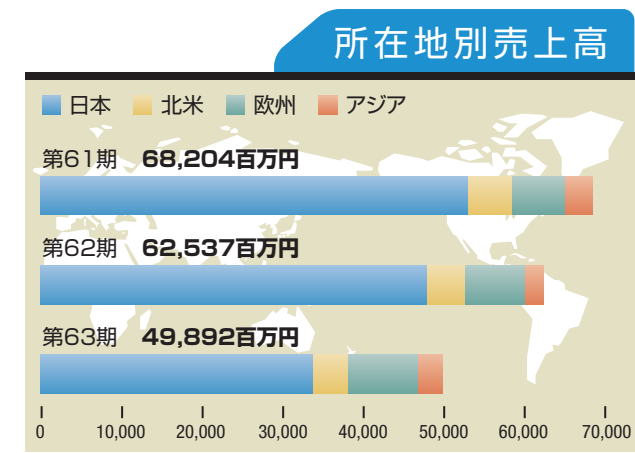
OTHERS

●自動車産業用品質マネジメントシステム ISO/TS16949認証取得 今後の需要拡大が見込まれる 車載レンズ事業が順調に進捗

2009年
12 December

一眼レフカメラ用交換レンズの更なる拡販を目指し、グローバルな事業展開を推進

— インド・モスクワに駐在員事務所を開設 —



成長著しいインド・ロシア市場へ本格的に進出し、主力事業である一眼レフカメラ用交換レンズの更なる拡販を図るため、昨年7月にインド、11月にモスクワに駐在員事務所を開設いたしました。

今回の駐在員事務所の開設は、当社が中長期的な課題の一つとして掲げる「写真関連事業における自社ブランド製品の拡販体制の強化」の一環であり、将来的には、一眼レフカメラ用交換レンズ以外にも監視カメラ用レンズ等の投入も見据えたものであります。

現在、インド・ロシア市場においては、代理店を通じた営業活動を行っておりますが、有力市場である両国での更なる事業基盤強化のため、駐在員事務所を開設し、情報収集および市場調査を行うとともに販売代理店との連携強化を図ることとしました。

今後ともグローバルな事業展開を推進してまいります。

フォーカス! | FOCUS

ズーム全域F/2.8、手ブレ補正機構搭載、
大口径標準ズームレンズ『17-50mm F/2.8 VC (Model B005)』発売

全世界で高い評価をいただいたズーム全域F/2.8の大口径標準ズームレンズ「17-50mm F/2.8 (Model A16)」の優れた光学性能を継承しながら、非常に高い描写性能を誇るタムロン独自開発の手ブレ補正機構「VC」を搭載し、“より自由に、より使いやすく”なった大口径標準ズームレンズを2009年9月に発売いたしました。

“大口径F/2.8”の明るさとシャープな描写、そして“手ブレ補正機構「VC」”による素晴らしく安定したファインダー像で豊かな表現力を発揮します。

レンズ素材には特殊硝材を多数採用し、レンズの精度に影響を与える様々な収差を補正することで、高い描写性能・解像感を獲得しているほか、コンパクト化にも貢献しています。

さらに、レンズ貼り合わせ面には特殊コーティングを施し、ゴーストやフレアーの発生を徹底的に抑制させています。

タムロンの光学設計が凝縮された「17-50mm F/2.8 VC (Model B005)」は、撮影者のクリエイティビティを呼び覚ます、珠玉のレンズです。



「ニコン用」：2009年9月17日発売
「キヤノン用」：2009年10月29日発売

最新情報 | INFORMATION

タムロン創業60周年記念モデル

『SP 70-300mm F/4-5.6 Di VC USD (Model A005)』を開発発表

特殊硝材「XLD」*1の採用でクラス最高レベルの高画質を実現。
超音波モーター「USD」*2と手ブレ補正機構「VC」を搭載した
35mm判フルサイズ対応、プレミアム望遠ズームレンズ。

35mm判フルサイズ一眼レフカメラに装着すると、中望遠70mmから300mmの本格望遠域をカバーする望遠ズームレンズとして使い、APS-Cサイズ相当のデジタル一眼レフカメラでは109mmから465mm相当の超望遠域までも捉えるズームレンズとして様々なユーザーの方々にご使用いただけます。

特殊硝材 XLDレンズを採用し、的確に色収差を補正することによって、シャープでコントラストの高い描写性能を実現しています。

さらに、望遠ズームが活躍する各種スポーツやイベント、鉄道や航空機などの動きの速い被写体の撮影時における合焦性能を高めるために、タムロンとして初の超音波モーター「USD」を搭載しました。そして、高い評価を得たタムロン独自開発の手ブレ補正機構「VC」の搭載により、プレイヤーズ望遠域での撮影に加え、夕景、夜景などの低照度下においても手持ち撮影を可能とし、撮影の自由度を飛躍的に高めています。

タムロンの技術力を結集して、「クラス最高レベルの高画質」「超音波モーター」「手ブレ補正機構」を備えた、完成度の高い70-300mm望遠ズームレンズを実現しました。

(※1)「XLD」(Extra Low Dispersion)レンズ。「LD」(Low Dispersion-異常低分散)レンズより、さらに色収差の補正能力が高い特殊硝材。
(※2)「USD」(Ultrasonic Silent Drive)タムロン開発の超音波モーター。



一眼レフで写真ライフを満喫しよう!

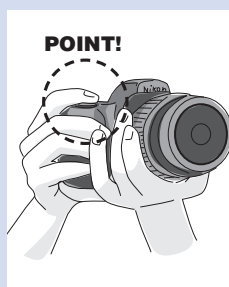
同一被写体を撮影しても、広角レンズや望遠レンズなど画角が異なるレンズを使用するとまったく違う印象の写真になります。これはレンズの画角や被写界深度(ピントの深さ)の違いによるものです。被写体で言うなら、風景や街角スナップなどには被写界深度が深く、シャープな再現性を持っている広角レンズが、背景をぼかしたポートレートには望遠レンズが向いています。

普段見なれた景色や何げない被写体も、望遠レンズやマクロレンズで切りとってみると意外な美しさを発見できるのです。

一眼レフカメラの正しい持ち方

1 左手の平でボディとレンズを下から包み込むように支え、軽く右手の人差し指をシャッターボタンにのせ両脇を身体に密着させるように締めます。

2 そしてシャッターを切るときは指先でシャッターボタンをトンと押すのではなく、人差し指の腹をシャッターボタンに乗せ指を動かさず軽く力を入れて押すようにします。



手ブレの原因はカメラの持ち方だけではなく、シャッターボタンの押し方にあることが多いので正しい持ち方と合わせて習得しておきましょう。

レンズ交換で広がる写真表現



f=18mm F7.1 1/250

広角での作例

街で美しいスカーフがハンドルに巻き付けられている自転車を発見しました。高倍率ズーム18-270mmの広角18mm(35mm換算28mm)で寄り気味に撮影。



f=270mm F6.3 1/100

望遠での作例

広角でややうるさく感じた背景を、望遠の270mm(35mm換算419mm)に切り替えて背景をぼかし、スカーフを強調してみました。



f=270mm F6.3 1/160

マクロでの作例

思い切って一番強調したかったスカーフのみ、望遠270mmのままマクロ撮影をしてみました。布の質感まで伝わる写真になりました。



f=5.9mm F4.5 1/200

コンパクトでの作例

キックボードの横を並走し、液晶モニターを見ながら撮影。こうしたラフな撮り方には、片手でも撮れるコンパクトカメラが向いています。

*レンズはすべてタムロン18-270mm F/3.5-6.3 DiII VC LD Aspherical [IF] Macroを使用。

連結財務諸表 | FINANCIAL STATEMENTS

連結貸借対照表(要旨)

(単位:千円)

区分	当期 2009年12月31日 現在	前期 2008年12月31日 現在
〔資産の部〕		
① 流動資産	30,530,662	30,063,549
② 固定資産	16,861,268	19,112,922
資産合計	47,391,931	49,176,471
〔負債の部〕		
③ 流動負債	11,904,151	13,369,164
④ 固定負債	2,558,425	2,680,395
負債合計	14,462,576	16,049,560
〔純資産の部〕		
株主資本	34,176,809	34,632,377
評価・換算差額等	△1,247,455	△1,505,465
⑤ 純資産合計	32,929,354	33,126,911
負債純資産合計	47,391,931	49,176,471

連結損益計算書(要旨)

(単位:千円)

区分	当期 自2009年1月1日 至2009年12月31日	前期 自2008年1月1日 至2008年12月31日
売上高	49,892,645	62,537,972
売上原価	35,637,382	43,676,836
売上総利益	14,255,262	18,861,136
販売費及び一般管理費	11,960,105	12,662,722
営業利益	2,295,157	6,198,413
営業外収益	182,043	260,261
営業外費用	213,451	616,536
経常利益	2,263,749	5,842,137
特別利益	1,800	-
特別損失	1,153,000	1,504,483
税金等調整前当期純利益	1,112,549	4,337,653
法人税、住民税及び事業税	674,150	1,833,548
法人税等調整額	△204,145	△525,155
当期純利益	642,545	3,029,260

連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)

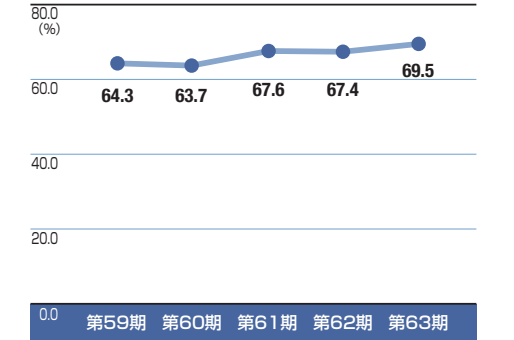
(単位:千円)

区分	当期 自2009年1月1日 至2009年12月31日	前期 自2008年1月1日 至2008年12月31日
⑥ 営業活動によるキャッシュ・フロー	3,727,055	6,947,620
⑦ 投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,829,293	△5,773,020
⑧ 財務活動によるキャッシュ・フロー	△801,949	△3,100,578
現金及び現金同等物に係る換算差額	39,141	△842,896
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	1,134,954	△2,768,875
現金及び現金同等物の期首残高	10,752,065	13,520,940
⑨ 現金及び現金同等物の期末残高	11,887,019	10,752,065

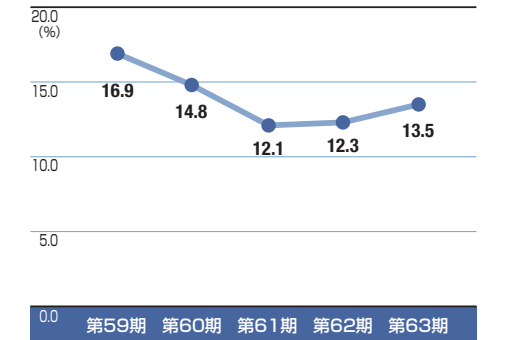
当期のポイント POINT

- ⑥ 税金等調整前当期純利益が11億12百万円、減価償却費が39億63百万円、たな卸資産の減少額が9億70百万円となった一方、厚生年金基金脱退損失引当金の減少額が11億49百万円、法人税等の支払額が15億84百万円となったこと等によるものであります。
- ⑦ 有形固定資産の取得による支出が17億15百万円となったこと等によるものであります。
- ⑧ 短期借入金の純増額が6億30百万円、長期借入れによる収入が10億円となった一方、長期借入金返済による支出が13億30百万円、配当金の支払いによる支出が11億円あったこと等によるものであります。
- ⑨ 厚生年金基金脱退に伴う特別掛金22億80百万円の支払がありました。前期末に比べ11億34百万円増加し、118億87百万円となりました。

自己資本比率の推移



借入金依存度の推移



当期のポイント POINT

- ① たな卸資産が9億7百万円減少しましたが、現金及び預金が11億34百万円増加したこと等により、前期末に比べて4億67百万円増加しました。
- ② 有形固定資産が16億69百万円減少したことや無形固定資産が5億31百万円減少したこと等により、前期末に比べて22億51百万円減少しました。
- ③ 厚生年金基金脱退損失引当金が11億49百万円減少したことや未払法人税等が6億4百万円減少したこと等により、前期末に比べて14億65百万円減少しました。
- ④ 長期借入金が減少したこと等により、前期末に比べて1億21百万円減少しました。
- ⑤ 利益剰余金が減少したこと等により、前期末に比べて1億97百万円減少しました。自己資本比率は、前期末に比べて2.1ポイント増加し、69.5%となりました。

連結株主資本等変動計算書(要旨)

(単位:千円)

当 期 (自2009年1月1日 至 2009年12月31日)	株 主 資 本					評価・換算 差額等	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本 合 計		
2008年12月31日 残高	6,923,075	7,440,327	21,790,201	△1,521,227	34,632,377	△1,505,465	33,126,911
連結会計年度中の変動額							
剰余金の配当			△1,098,035		△1,098,035		△1,098,035
当期純利益			642,545		642,545		642,545
自己株式の取得				△77	△77		△77
株主資本以外の項目の連結会計年度中の変動額(純額)						258,010	258,010
連結会計年度中の変動額合計	-	-	△455,490	△77	△455,567	258,010	△197,556
2009年12月31日 残高	6,923,075	7,440,327	21,334,711	△1,521,304	34,176,809	△1,247,455	32,929,354

個別財務諸表 | FINANCIAL STATEMENTS

貸借対照表(要旨)

(単位:千円)

区分	当期 2009年12月31日 現在	前期 2008年12月31日 現在
(資産の部)		
流動資産	23,057,578	23,544,665
固定資産	13,592,748	15,632,315
資産合計	36,650,326	39,176,980
(負債の部)		
流動負債	7,751,576	8,435,359
固定負債	2,545,516	2,676,977
負債合計	10,297,092	11,112,337
(純資産の部)		
株主資本	26,276,112	28,074,099
評価・換算差額等	77,121	△9,455
純資産合計	26,353,233	28,064,643
負債純資産合計	36,650,326	39,176,980

損益計算書(要旨)

(単位:千円)

区分	当期 自2009年1月1日 至2009年12月31日	前期 自2008年1月1日 至2008年12月31日
売上高	45,369,887	58,414,367
売上原価	36,828,493	45,771,360
売上総利益	8,541,394	12,643,007
販売費及び一般管理費	8,961,937	9,604,910
営業利益又は営業損失(△)	△420,543	3,038,096
営業外収益	707,480	1,880,158
営業外費用	114,442	594,089
経常利益	172,495	4,324,165
特別利益	1,800	-
特別損失	1,153,000	1,504,483
税引前当期純利益又は税引前当期純損失(△)	△978,704	2,819,681
法人税、住民税及び事業税	96,436	1,099,982
法人税等調整額	△375,267	△451,670
当期純利益又は当期純損失(△)	△699,873	2,171,369

株主資本等変動計算書(要旨)

(単位:千円)

当期 (自2009年1月1日 至 2009年12月31日)	株主資本					評価・換算 差額等	純資産 合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本 合計		
2008年12月31日 残高	6,923,075	7,440,327	15,231,924	△1,521,227	28,074,099	△9,455	28,064,643
事業年度中の変動額							
剰余金の配当			△1,098,035		△1,098,035		△1,098,035
当期純損失			△699,873		△699,873		△699,873
自己株式の取得				△77	△77		△77
株主資本以外の項目の事業年度中の変動額(純額)						86,577	86,577
事業年度中の変動額合計	-	-	△1,797,909	△77	△1,797,986	86,577	△1,711,409
2009年12月31日 残高	6,923,075	7,440,327	13,434,014	△1,521,304	26,276,112	77,121	26,353,233

CSR活動報告 | CSR REPORT

第2回タムロン鉄道風景コンテスト開催
「私の好きな鉄道風景ベストショット」

—入賞作品写真展を開催—

タムロンでは、鉄道文化、写真文化、地域社会の発展に貢献するため、2008年より「タムロン鉄道風景コンテスト私の好きな鉄道風景ベストショット」を、「さいたま市」と「さいたま商工会議所」のご後援をいただき開催しています。このコンテストは、鉄道風景写真、鉄道のあるスナップ写真など、鉄道とその周辺を入れ込んだ写真であれば、風景、スナップ問わず広くご応募可能な写真コンテストで、第2回目となる今回、全国各地から前回は上回る1,229名の皆様から総作品数4,002点もの応募が集まりました。

そして、2009年10月14日～27日まで、そごう大宮店にて「タムロン鉄道風景コンテスト私の好きな鉄道風景ベストショット」入賞作品写真展を開催しました。

多くの取材陣が取り囲むなか盛大に行われたオープニングセレモニーでは、「一般の部」と「小・中・高校生の部」大賞受賞者の表彰やテープカットが行われました。

今後もタムロンは、地域社会への貢献活動の一環として、同コンテストを継続して行ってまいります。

応募人数
1,229名
(前回:1,100名)

応募総作品数
4,002点
(前回:3,741点)

入賞者
85名



大賞受賞作品(一般の部:さいたま市長賞)
竹下 康男 様「ガード下」



大賞受賞作品(小・中・高校生の部:さいたま商工会議所会頭賞)
尾形 美海 様「ラブレター」

会社概要 | COMPANY PROFILE

会社概要 2009年12月31日現在

商号	株式会社タムロン
創業	1950年11月1日
設立	1952年10月27日
本社	埼玉県さいたま市見沼区蓮沼1385番地
資本金	69億23百万円
従業員数	5,472名(連結)

役員 2010年3月30日現在

代表取締役社長	小野 守男
取締役副社長	河野 昭二
取締役副社長	太田 均
取締役副社長	白井 義博
専務取締役	長島 久明
専務取締役	川合 喬
常務取締役	関 廣司
常務取締役	新井 宏明
取締役	志村 忠寛
取締役	鱒坂 司郎
取締役	大瀬 英世
常勤監査役	大川 清司
常勤監査役	益子 幸雄 ※
監査役	富吉 紀夫 ※
監査役	西本 恭彦 ※

※社外監査役



品質マネジメントシステム企業登録 ISO 9001 取得
 タムロンは、国際的な品質マネジメントシステムの規格、ISO9001に適合認定されています。
環境マネジメントシステム企業登録 ISO 14001 取得
 タムロンは、地球環境対策にも積極的に取り組んでいます。

株式の状況 2009年12月31日現在

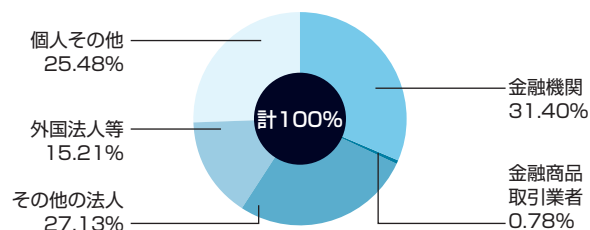
発行可能株式総数	80,000,000株
発行済株式の総数	28,235,000株
単元株式数	100株
株主数	8,939名 ※単元未満除く

大株主(上位10名) 2009年12月31日現在

株主名	所有株式数(千株)	持株比率(%)
株式会社ニューウェル	4,898	17.34
ソニー株式会社	3,129	11.08
株式会社宏友興産	1,529	5.41
株式会社埼玉りそな銀行	1,122	3.97
ザチェースマンハッタンバンク エヌエイロンドン (常任代理人 株式会社みずほコーポレート銀行)	1,079	3.82
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	1,032	3.65
ステートストリートバンクアンドトラストカンパニー (常任代理人 株式会社みずほコーポレート銀行)	995	3.52
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	553	1.96
タムロン協力会社持株会	460	1.63
ザチェースマンハッタンバンク エヌエイロンドン エスエルオムニバスアカウント (常任代理人 株式会社みずほコーポレート銀行)	438	1.55

注) 1. ソニー株式会社の所有株式数3,129千株は、みずほ信託銀行株式会社へ委託した信託財産であります。信託約款上、議決権の行使並びに処分権については、ソニー株式会社が指図権を留保しております。
 2. 上記の他に、当社が所有している自己株式784千株(発行済株式総数に対する所有株式数の割合2.77%)があります。

株式所有者別分布 (単元未満除く)



株主メモ

事業年度	毎年1月1日から12月31日まで
定時株主総会	毎年3月
基準日	定時株主総会 毎年12月31日 期末配当 毎年12月31日 中間配当 毎年6月30日
単元株式数	100株
株主名簿管理人	東京都港区芝三丁目33番1号 中央三井信託銀行株式会社
郵便物送付先(電話照会先)	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 中央三井信託銀行株式会社 証券代行部 電話 0120-78-2031(フリーダイヤル) ※取次事務は中央三井信託銀行株式会社の全国各支店並びに日本証券代行株式会社の本店及び全国各支店で行っております。
公告方法	電子公告 ※ただし、電子公告による公告ができない場合は、日本経済新聞に掲載して行います。 当社ホームページ http://www.tamron.co.jp

- お知らせ
- 住所変更、単元未満株式の買取等のお申出先について
株主様の口座のある証券会社にお申出ください。
なお、証券会社等に口座がないため特別口座が開設されました株主様は、特別口座の口座管理機関である中央三井信託銀行株式会社にお申出ください。
 - 未払配当金の支払について
株主名簿管理人である中央三井信託銀行株式会社にお申出ください。

ホームページのご紹介

当社ホームページでは、事業内容をはじめ、商品のご紹介からIR情報に至るまでの様々な情報を掲載しています。ぜひご利用ください。

主な掲載コンテンツ

- 企業情報
- 製品情報
- お問い合わせ
- CSRへの取り組み
- 採用情報
- IR情報

タムロン・フォトサイト

写真の様々な楽しみをご紹介します。ぜひご覧ください。



タムロン・プロニカクラブはこちら

株主の皆様の声をお聞かせください

インターネットでアンケート!!

当社は、株主の皆様の声をお聞かせいただくため、アンケートを実施いたします。お手数ではございますが、下記の方法にてご協力をお願いいたします。

下記URLにアクセスいただき、アクセスコード入力後に表示されるアンケートサイトにてご回答ください。所要時間は5分程度です。

<http://www.e-kabunushi.com>
 アクセスコード 7740

いいかぶ 検索

Yahoo!、MSN、exciteのサイト内にある検索窓に、いいかぶと4文字入れて検索してください。

空メールによりURL自動返信

kabu@wjim.jpへ空メールを送信してください。(タイトル、本文は無記入)アンケート回答用のURLが直ちに自動返信されます。

●アンケート実施期間は、本書がお手元に到着してから約2ヶ月間です。

ご回答いただいた方の中から抽選で薄謝(図書カード500円)を進呈させていただきます



●アンケートのお問い合わせ「e-株主リサーチ事務局」
 TEL : 03-5777-3900 (平日10:00~17:30)
 MAIL : info@e-kabunushi.com

※本アンケートは、株式会社エーツメディアの提供する「e-株主リサーチ」サービスにより実施いたします。(株式会社エーツメディアについての詳細<http://www.a2media.co.jp>)
 ※ご回答内容は統計資料としてのみ使用させていただきます。事前の承諾なしにこれ以外の目的に使用することはありません。

タムロン トップページ



投資家の皆様へ財務情報や、IR関連ニュースはこちらをご覧ください。

CSRへの取り組み

P.12で紹介しております。社会・環境への取り組みについて詳しくはこちらをご覧ください。

株主の皆様もぜひご応募ください

第7回 タムロン マクロレンズ フォトコンテスト 作品募集

募集期間：2010年3月11日(木)～10月30日(土) ※消印有効

第1回～第6回 タムロン マクロレンズ フォトコンテスト グランプリ受賞作品



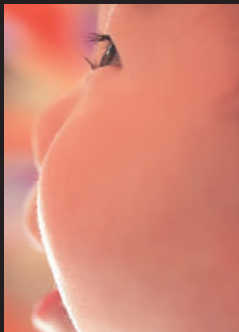
第6回グランプリ受賞作品



第5回グランプリ受賞作品



第4回グランプリ受賞作品



第3回グランプリ受賞作品



第2回グランプリ受賞作品



第1回グランプリ受賞作品

TAMRON MACRO LENS PHOTO CONTEST

●詳しくは当社ホームページ上にも掲載しています。

コンテスト概要

ネイチャーの部

植物や虫、小動物などの

ネイチャー写真を対象

ノンジャンルの部

人物・アクセサリ・料理など、

ネイチャー写真に限らず広く募集

応募規定：マクロレンズで撮影された写真であればメーカー名、旧モデルを問わず応募可能。

テーマは自由。(どちらかの部門にご応募ください。)

応募形態：キャビネサイズ(2L)～四ツ切りワイドプリントまで(白黒・デジタルホームプリント可)

募集期間：2010年3月11日(木)～10月30日(土) ※消印有効

主催・お問い合わせ：株式会社タムロン 広報宣伝室

マクロレンズ フォトコンテスト事務局

電話 03-3251-3860 FAX 03-3251-3863

「マクロレンズのタムロン」が主催するマクロレンズ限定のフォトコンテストです。
作品募集中ですので、多くの方々のご応募をお待ちしております。

詳細はホームページをご覧ください。 <http://www.tamron.co.jp>

株式会社タムロン

〒337-8556

埼玉県さいたま市見沼区蓮沼1385番地

TEL 048-684-9111 (代)

FAX 048-683-8289

<http://www.tamron.co.jp>

■IR情報関連に関するお問い合わせ
経営企画室

TEL 048-684-9114 (午前9:00～午後5:20)

FAX 048-683-8282

e-mail : kabushiki@tamron.co.jp



ミックス品

FSC認証林及び管理された
原料からの製品グループです。
www.fsc.org Cert no. SGS-COC-002499
© 1996 Forest Stewardship Council